

平成30年度 学校自己評価重点目標シート (川口市立戸塚中学校)

学校教育目標	・自ら考えよく学ぶ生徒 ・心豊かで思いやりのある生徒 ・心身ともに健やかな生徒
目指す学校像	「落ち着きと潤いのある学び舎」 創意あふれる教育活動を展開し、保護者・地域に開かれ信頼される学校

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	
学校関係者 (教職員を除く)	5名
事務局 (教職員)	3名

学 校 自 己 評 価					
領 域	年 度 目 標			年 度 評 価 (平成30年 2月 18日 現在)	
	現状と課題	重点目標	具体的方策	重点目標の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
組織運営	○情報伝達は円滑になったものの、学年や分掌毎では、その速度と精度にはやや違いがあるため、速度、制度の向上が求められている。	○学校教育目標の具現化に向け、各教職員一人ひとりに経営参画意識を持たせるため、学校評価を毎学期実施する。 ○分掌と学年の業務の精選を図り、組織体制を改善する。	○企画委員会や研究推進委員会、生徒指導・教育相談部会等の校務分掌の活性化を図る。 ○教職員評価システムを活用した、教職員のライフスタイルに応じた目標設定を行う。	○毎学期に学校評価を実施し、教職員の意識をはかり知ることができた。分掌ごとの会議も設定することができた。おおむね達成できた。 ○部制度を導入するための、校務分掌の精選を行うことができた。おおむね達成できた。 ○会計に関する組織体制に課題があることが明確になった。	C ○分掌会議を実施することができたが、全体の会議の席で課題を共有し、解決するまでの時間を十分に確保することができなかった。次年度は、3学期早々から取り組めるようにスケジューリングする。 ○分掌に関するアンケートを1学期から取り始める。 ○組織改善・責任の所在の明確化
教育課程	○数値化されたデータを元にした教科毎の改善策の完成度を高める余地がある。その上で、学習規律の徹底を図り、生徒一人一人の関心・意欲を高め、学力向上を目指す。	○生徒の実態把握(国・県の学習)状況調査等の検証)に基づく学力向上を目指す。 ○生徒一人一人が「できた・わかった」と声のあがる授業への取り組みを目指す。	○授業研究会を通して、学習指導方法と評価方法の工夫改善を行う。 ○学力、技能の分析と対策案の企画立案を行い、シラバスに引き込む。 ○特別支援学級との交流を行い豊かな心の育成を図る。	○分析に欠けることは残念。全員が知識構成型ジグソー法の研修を積んで、委嘱研究の授業公開に臨むことができた。 ○シラバスの完成度を上げることができなかった。 ○特別支援学級との交流は違和感もなく完成している。	B ○分析と対策発表会を次年度には開催する。 ○シラバス作成の足並みがそろわない。 ○特別支援学級との取り組みでは、普通学級の教員から合理的な連携案が提出される雰囲気ではない。
開かれた学校づくり	○学校の情報量が少ないという指摘が寄せられている。情報発信力を向上させるために、ICTの活用や保護者に合わせた企画の立案が求められている。	○保護者来校数前年度(11月時点3321人)比105%(3487人)を目指す。 ○学校授業公開を月に1回実施し保護者向け「カルチャー教室」を実施し、学校教育活動を地域に広げる。	○授業公開日を月に1回実施し、保護者会の工夫改善を図る。 ○小・中・高・との連携を強化し教育交流のシステムを構築する。 ○学校情報の発信(メールとHP、学校だより、広報活動)を充実させる。	○メールとホームページとのリンクをさせることができた。 ○来場者数は11月末で4956人となり、149%となった。 ○委嘱発表を機に小中高が連携席の連携の一步を踏み出すことができた。	B ○ホームページの更新数が変わった。一日一つの更新を目指す。 ○授業改善でつながる学校は、中学校がカギを握ると期待させる。 ○学年だより、学級だよりの禁止かも
教職員の資質向上	○研修意欲が旺盛な教職員が多く、道徳の教科化や深い学びのために有効な指導法の習得に期待が寄せられている。	○市教委の研究指定研究主題『自ら学び、意欲的に取り組む生徒の育成』を主題に全教科で学力向上を達成する。 ○道徳、知識構成型ジグソー法、ライフスキルの研修を推進し、いじめ防止にもつなげる。	○ユニバーサルデザインによる授業づくりとICT活用を積極的に実施する。 ○教職員が共通理解・共通行動を図り、生徒一人一人の良さを伸ばす。 ○異校種間連携や専門機関として東京大学COREFとの連携を進める。	○ICT活用の機運が大いに沸き立ったと思える。 ○東京大CoREFから学び、授業改善に大いに役立てることができた。	B ○ICT機器の修繕、新規購入等条件整備を急ぐ必要がある。 ○東京大学CoREFから学び、「学びプロジェクト」の参加者を増員する。 ○道徳、特別活動、知識構成型ジグソー法、ライフスキルかわぐちを継続する。
施設・設備等の管理	○創立40周年を目前にし、経年劣化による不具合や設備の老朽化が目立つ。生徒と教職員に安心・安全な学校環境づくりを急ぐ必要がある。	○施設・設備の有効活用と危機管理意識の啓発・継続・徹底をする。 ○計画的に廃棄物を整理すると共に、PTA等と協力した施設設備の修繕・環境整備等を推進する。	○安全点検の確実な実施と危険箇所早期発見(連絡・報告の徹底)修繕をする。 ○情報管理の徹底と研修の充実と意識改善を図る。 ○非常災害時への迅速で安全な対応と安全教育の推進をする。	○施設点検、非常時対策は昨年度から改善を図ることができた。 ○情報機器の管理体制が不十分であった。	B ○規約等の改善を行う。 ○校内組織の新たな体制の下で、管理担当者を明確に置く。

学 校 関 係 者 評 価	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○取り組みは良いと思う。常に改善が求められている。 ○働き方の改革へつながるのだろうか。先生方にゆとりがなさそうです。 ○分掌化された各分野でとても積極的な活動が行われていると思います。 ○全体会議の課題共有をお願いします。	
○分析こそ、改善のために重要である。対策発表会は良いアイデアだと思う。 ○特別支援学級の交流は学校以外にも広げてほしいものです。 ○教員同士の意見交換が普段からできるように考えてほしいものです。 ○シラバスは以前より少しは前進していると思います。	
○人が増えたことは喜ばしい。 ○ホームページが扱いづらい。 ○ホームページが他と比べて、品組である。 ○小中高の連携も相互関係を築くことでさらに意味を増すと思う。 ○問題なく学校は開かれていると思います。 ○子供主体で自発的に行える行事を市・地域・町会相談員の連携で行えないものか	
○これからの変化が激しい世に出る者たちが大変だと思う。今回の取り組みを聞いて、納得ができた。 ○先生方の授業のやり方が素晴らしかったです。CoREFも覚えました。 ○新たな試みを取り入れ、努力なさっていると思います。	
○管理職の奮起に期待する。 ○難しい世だと思いが、しっかり管理してほしい。 ○日常の点検をはじめ、情報の共有を行い計画的な対応を望みます。 ○40年経つと当然リニューアルが必要となります。劣化がひどく廊下は暗く、狭いので圧迫感があります。	